

## 平成30年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成 31年 4月 1日

報告者	学科名	看護学科	職名	教授	氏名	沖本 克子
研究課題	小児・思春期発症糖尿病患者の病気の開示に関する研究					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	沖本 克子	保健福祉学部看護学科・教授	小児看護学	研究の全体的遂行	
	分担者	網野 裕子	保健福祉学部看護学科・助教	小児看護学	データの分析	
研究実績の概要	<p>当初の研究計画を変更し、Children's National Health System (111 Michigan Avenue NW, Washington, D. C., 20010 USA) における「糖尿病の子どもの心理社会的な支援」に関する調査と共同研究の承諾を得るために、助成金を使用した。</p> <p>具体的には、3月25日（月）～29日（金）まで、糖尿病の子どもの心理社会的な支援に関する調査を行った。糖尿病外来においては、診断されて日の浅い糖尿病患者と家族を対象としたDiabetes Self-Management Education Class、ナースプラクティショナーや医師による外来診療の見学を行った。糖尿病教育は、臨床心理士、管理栄養士、看護師により行われ、それぞれの専門性を発揮していた。臨床心理士は、子どもが糖尿病と診断された時の子どもの反応、診断前の子どもと同じ状態に戻るよう支援すること、血糖測定は試験ではないこと、23歳になると全員抑うつスクリーニングが行われること、家族にも支援が必要であることなどを説明し、診断時のショックを取り除く配慮をしていた。管理栄養士はカーボカウントの計算について詳細に説明していた。看護師は、カーボカウントとインスリン量の決定に関する計算を、例題を用いて詳細に説明していた。外来診療で見学した患児は、2型の子どものみが1名いたが、残りの子どもはすべて1型であった。血糖コントロールができていない子どもは少なく、何かしらの問題を抱えていた。心理社会的な支援の重要性が伝わってきた。入院病棟においては、糖尿病患者に関するカンファレンスと、臨床心理士による面接を見学した。</p> <p>27日（水）には、共同研究依頼のプレゼンテーションを行い、ディスカッションした結果、Fran Cogen 医師とMaureen Monagen 臨床心理士から共同研究の承諾が得られた。</p> <p>今後、「糖尿病の子どもの心理社会的な支援」に関する研究の助成金取得に努める予定である。</p>					